

わがまちふろっと探検記 (5)

今月号は興津をご紹介します。



興津は、本町の東南東に位置し、役場本庁から県道王ノ加江窪川線・興津窪川線を経由して約十七キロメートルの距離にあり、人口は、千二百二十四人、世帯数五百八十三戸の、黒潮町と隣接する海洋に恵まれた集落です。

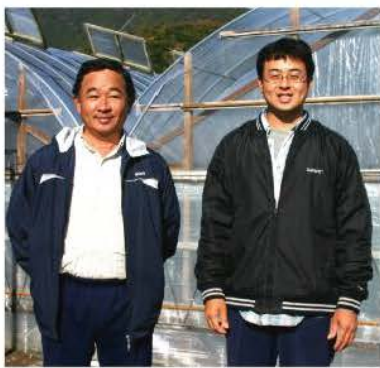
土佐湾に面した海岸地域では、シイラ・伊勢海老、モイカなど一年を通して豊富な魚介類が水揚げされ、中でもシイラ漁は年間四百〜五百トン水揚げされるほど盛んで、刺身で良し、フライにして食べても絶品です。



興津市場の様子

また、興津海水浴場は、東西約二キロメートルに及ぶ白砂青松の渚とAA判定の水質から、平成十八年度に環境省より「快水浴場百選」に認定されました。夏には県内外から多くの観光客が訪れ、海水浴やマリンスポーツを楽しみ、ビーチバレー大会も開催されます。海水浴場と隣接する「興津青少年旅行村」は、ログハウスや海の家などが整備され、充実したキャンプ施設となっています。

興津地域は、古くより施設園芸が盛んで、ハウスによるピーマンの生産などが中心に行われてきましたが、近年ではミヨウガの生産が盛んに行われるようになりました。この日は、親子二代でミヨウガを生産している、濱崎千尋さん、文隆さん親子のハウスを訪ね、ミヨウガを生産するように至った経過などのお話を伺いましたが、千尋さん、後継者の文隆さんの成長に満足そうな笑みを浮かべておられました。



濱崎千尋さんと文隆さん



ミヨウガをパック詰めするJA集出荷場の皆さん

毎年十月十五日に行われる興津八幡宮大祭は、四百年以上の歴史があり、宮舟・花取り踊り・流鏑馬が「興津八幡宮の古式神事」として県の無形民俗文化財に指定されています。宮舟と神輿を担いで、白浜を駆けめぐり激突する様は迫力満点です。



小室の浜で繰り広げられる宮舟神事 (平成17年10月15日)

四万十町では、インターネットでも広報が見られるように、ホームページ <http://www.town.shimanto.lg.jp/koho/> に掲載して3ヶ月。10月1日、四万十町が誕生してからの本報をすべてみることもできます。また、町ホームページには町の色々な情報が掲載されていますので、ご覧いただきたい方はぜひ一度ご覧ください。

さて、四万十ヶヶブルラレ(Letter) <http://www.town.shimanto.lg.jp/> では、ホームページ、メールサービ、メールサービの入替作業をのノ月末に実施しました。作業中、作業後はご利用の皆さまには迷惑をおかけしましたが、おかげさまで、トラブルもなく入替作業を完了することができました。

メールサービの入替作業は、一番利用が少ないと思われる早朝5時から実施しました。切替作業の前準備もあり、当日は4時に集合し作業を行いました。夜型人間のお手本ともいわれるSE(上村イー) (シラノイェン)さんにとっては、はじめてという早朝作業は、まだ真暗な静まりかたの中で、機械だけが眠りもせず動いていて不思議な感覚を覚えました。

切替作業は予定どおり終了したのですが、その日が残業で午後5時までの仕事というのを忘れていたのが予定外でした。(耕)

町の人口

(1月1日現在)

男	9,932
女	11,048
計	20,980
世帯数	8,800
平均年齢	男性・48.1
	女性・52.8
	全体・50.6

四万十町ホームページアドレス
<http://www.town.shimanto.lg.jp/>